

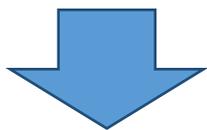
授業のポイント

- 導入から終末まで発問につながりを持たせること。
- 児童の言葉を生かしたりつなげたりして、学級全体で考えを深めるようにする。
- ✕ (一つ一つの発問に一人一人が答えて進行していく授業)
- グループでの話し合いを授業に生かすこと。
- ✕ (議論させてどちらが正しいか結論を出す)(何のために話し合ったのか分からない)

教材の内容を生かした、 ねらいと評価の観点を明確にする

道徳科で育てるものは、道徳の諸様相「道徳的判断力、心情、実践意欲と態度」であるが、一時間の授業のねらいとしては大きすぎるし、分かりづらい。

一時間の授業の中で児童に何を一番考えさせたいのか、ねらいを焦点化し、評価につなげる。



「自分本位に考えるのではなく、相手の思いを受け入れ、自分と同じように相手を尊重することの大切さについて考えることができる。」



いかり

だんだん消えていく



授業で考えたこと、学んだことをしっかりと振り返ることができるように、心の動きや変容などを視覚化したものを残す。

見つめよう 生かそう

「ともみさんは少しずつ怒りをしずめていったね。こんなふうには、怒りの炎を消していくために大切なことについて考えてみよう。」

- ・許せないって怒ったときのことだけじゃなくて、今までの楽しかったこととかをちゃんと思い出す
- ・自分も悪かったかなって自分のことも反省することが大切
- ・相手が悲しい気持ちでいるかもしれないって相手のことを思いやる気持ちをもつ

終末

「最初にお話したことの続きを伝えるね。あの後、ボール遊びしていたお友達が、その子の縄跳びの練習を毎日一生懸命手伝って、三日後に二十回を達成することができたんだよ。今では二人はいい友達になっていつも一緒に遊んでいます。先生もとても嬉しいです」



- C1: 「相手が悪いって思いこまないこと」
- T: 「悪いのは相手だけじゃないってこと?」
- C1: 「自分の事も考えるっていうか・・・」
- C2: 「自分も悪い所があったんじゃないかって反省するってことだよ。」
- 一人の児童の発言を全体に返し、皆で考えることができた。
- お互いの気持ちを尊重し合い、明るい気持ちで生活していこうという意欲につなげることができた。